

### 第3回理科ワーキンググループについて

2016年1月14日に中央教育審議会教育課程部会の理科ワーキンググループが開催された。  
16:00から18:00まで文部科学省3階2特別会議室で行われた。  
一般傍聴者は前回と同様に30名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 理科教育のイメージ及び理科において育成すべき資質・能力について
2. アクティブラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき理科指導等の改善充実の在り方について
3. 現行学習指導要領における現状と課題について

事務局から資料について簡単に説明があり、16:15頃より議題1について議論が始められた。

生徒が自分から理科を学びたいと思うようにさせるために、学ぶ意義・有用感を生徒にしっかりと伝えることが重要であり、そのために日常生活との関連性、探究の面白さを教えていくべきであるなどの意見が出された。

17:05頃より議題2についての議論に移った。

資料では、探究のプロセスが一つの道筋として書かれていたが、実験と観察は分けるべきだという意見や、実験・観察以外の探究（思考による探究など）も入れてほしいとの意見があった。

課題の発見からプロセスがスタートしているが、ここに大きなハードルがあるので、その前にもう一段階必要であるとの意見もあった。

そもそも、何をもちアクティブラーニングとするのか、今までとの違いを明確にするべきだとの指摘もあった。

ここまでに17:45頃となり、前回から持ち越しとなっている議題3については時間がなくなったためにさらに次回へ持ち越しとなった。

最後に特別支援教育部会での議論について、各教科においても障害に応じた配慮すべき事項を記述するべきだとの報告がなされた。

次回は2月5日（金）17:00～19:00文科省15階特別会議室にて開催の予定である。